

「日本の活断層百景」運動と災害リスク低減におけるその意義 ”100 Active fault-scape in Japan” movement and its implication in reduction of disaster risk

豊蔵 勇^{1*}, 吾妻 崇², 岡田 篤正⁴, 太田 陽子³, 桂 雄三⁵, 田近 淳⁶, 中田 高⁷, 原田 昭夫⁸, 星野 実⁹, 細矢 卓志¹⁰, 松田 時彦¹¹, 向山 栄¹², 渡辺 満久¹³
TOYOKURA, Isamu^{1*}, AZUMA, Takashi², OKADA, Atsumasa⁴, OTA, Yoko³, Yuzo Katsura⁵, Jun Tajika⁶, Takashi Nakata⁷, Akio Harada⁸, Minoru Hoshino⁹, HOSOYA, Takashi¹⁰, MATSUDA, Tokihiko¹¹, MUKOYAMA, Sakae¹², WATANABE, Mitsuhisa¹³

¹ ジオ・とよくら技術士事務所, ² 産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター, ³ 国立台湾大学, ⁴ 立命館大学, ⁵ 文化庁, ⁶ 北海道立総合研究機構 地質研究所, ⁷ 広島大学, ⁸ 国立東京博物館, ⁹ 国土地理院, ¹⁰ 中央開発, ¹¹ 地震予知総合研究振興会, ¹² 国際航業, ¹³ 東洋大学

¹Geo-Toyokura Professional Engineer Office, ²AIST, Active Fault and Earthquake Research Center, ³National Taiwan University, ⁴Ritsumeikan University, ⁵Agency for Cultural Affairs, ⁶Hokkaido Research Organization, Geological Survey of Hokkaido, ⁷Hiroshima University, ⁸National Tokyo Museum, ⁹Geographical Survey Institute, ¹⁰Chuo Kaihatsu Corporation, ¹¹Association for the Development of Earthquake Prediction, ¹²Kokusai Kogyo Co.,Ltd., ¹³Toyo University

まえがき

日本活断層学会では「日本の活断層百景」活動を2009年から進めているが、昨年の地球惑星連合大会では、活動の一環として実施している2010年「日本の活断層・フォトコンテスト」の結果とその意義を紹介した。本発表では、その後2011年においても「日本の活断層・フォトコンテスト」を実施し、また活断層百景として選出している活断層の現地見学会を3回実施したので、その活動内容を紹介し、災害リスク低減の観点からの意義について報告する。

1. 2011年「日本の活断層・フォトコンテスト」の結果とその意義

「日本の活断層・フォトコンテスト」は、教育研究・芸術・防災教育・歴史的などのさまざまな観点から活断層・変動地形を撮影した写真を対象としている。今年度は、新たに空からとトレンチを含めた写真も対象とした。応募者と作品数がそれぞれ、20名と61点であった。応募いただいた皆様には深く感謝致します。

応募作品を対象別でみると、地表地震断層、空からの写真、活断層・褶曲露頭、トレンチを含むものなどに分類された。昨年11月、白尾元理審査員長と3名の会員審査員で、入賞作品7点を選考した。入賞作品は、当学会のホームページで公開しているので参照してほしい。7点のうち会員が2点、非会員が5点であった。また、入賞作品の発表は、当学会の千葉大学における秋季学術大会で行い、入賞作品には賞状等を贈呈した。以下に、入賞者の氏名を列挙しておく。

優秀賞1点：黒澤英樹氏、入賞6点：石塚 登氏、郡谷順英氏、後藤秀昭氏（会員）、田村丈司氏（2点）、渡辺満久氏（会員）

2. 活断層百景の現地見学会

活断層百景の見学会は、昨年作成した百景リストにある断層・箇所と周辺の見どころを対象として、機会があるごとに実施することとしている。第1回は名古屋大学における濃尾地震120周年記念シンポジウムにあわせて実施した根尾谷断層の日帰り見学会（10月29日）、第2回は本学会の秋季学術大会後の三浦半島断層群の日帰り見学会（11月27日）、および第3回は東北地方太平洋沖地震の後地震発生確率が高まったとして注目されている立川断層の教育普及講演会後の1日見学会（1月28日）で、今年度は計3回の見学会を実施した。前2回は、学会員を対象としたバスを利用した見学会であり、参加者数は35名と25名であった。最後の見学会は主として一般市民を対象として現地集合方式でおこなった現地説明会で、参加人数は延べ約190名であった。この参加者の内訳を会員と非会員別でみると、根尾谷断層と三浦半島断層群とは約1:2の割合で、立川断層では約1:10であった。

3. フォトコンテストや見学会から見る「災害リスク」低減への期待

活断層・フォトコンテストの目的は、科学・防災教育上または景観的等に優れている写真を通して、一般市民に活断層を認識してもらう契機とすることであるが、さらに地震リスク低減の意義については、以下のようにとらえることができると思われる。今回、2度目のフォトコンテストを実施したわけであるが、応募作品数を見ると、4月11日茨城県浜通りの地震（Mjma7.0）の際にきた井戸沢断層と湯ノ岳断層の地表地震断層のものが多くあった。東日本大震災の1か月後で、その記憶がまだ冷めやらぬ時期にきた地震断層で、また東京からのアクセスが良かったため、多くの研究者や見学者が現地を訪れている。結果としては、応募数は非会員の方が多く、また入賞作も非会員の方が多いという結果となった。例えば非会員の田村氏の入賞作は、受賞時の挨拶によると自分の子供達に見せるため子供の目の高さで撮影していたもので、活断層の専門家とは一味違った視点でとらえていた。フォトコンテストに参加したことや入賞したことは活断層の良き理解者や語り部となることが期待される。一般市民が活断層・地震災害リスクをもっとも認識しやすいのは、地震との関係が明確な地震断層を専門的な解説を受けながら観察することであろう。しかも、その数は、できるだけ多いことが望ましい。また、その観点で考えると新たにきた地表地震断層の見学会やトレンチ調査の見学会なども大変有効であることを示唆する

Japan Geoscience Union Meeting 2012

(May 20-25 2012 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2012. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



HSC24-P12

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 15:30-17:00

当学会では活断層見学会や講演会に参加する一般市民の参加目的、理解度、終了後の感想、および更なる質問・疑問を把握することを目的として、簡単なアンケート（質問を含む）を実施してきた。今回の見学会で特に注目された点は、非会員の数が多かったこと、とりわけ自治体の防災計画に深く関わりをもつ県・市議会議員や防災担当者、その他災害の軽減にとって重要な役割を担う防災リーダーや教師などが参加していた点である。本発表では、アンケートを分析した結果に基づき、その他活断層による地震災害リスクを軽減するに際して参考になる諸点について紹介する。

キーワード: 活断層, 変動地形, 活断層百景, 活断層百選, 地震災害リスク, 理科・防災教育

Keywords: active fault, active geomorphology, active fault 100, 100 views of active faults, earthquake disaster risk, Science and disaster education